

## 令和8年北海道森づくり研究成果発表会について

企画調整部普及グループ主査（普及）阿部 哲也

道総研森林研究本部（林業試験場・林産試験場）では、北海道水産林務部との共催で、令和8年5月26日（火）、北海道立道民活動センター「かでの2・7」（札幌市）において、令和8年北海道森づくり研究成果発表会を開催しました。本発表会は、森林整備や木材利用に関する研究成果、地域における技術普及や活動事例の紹介など、本道における林業・林産業に関する知識を深め、技術の向上を図ることを目的に開催しております。

午前の一般発表の部では、国・道の行政機関や研究機関、民間企業などから口頭発表5課題、ポスター発表7課題の計12課題の発表が行われました。口頭発表では、近年、森林分野での利用が高まっているUAVを活用した事例、自伐型林業の現状や取組についての紹介があり、ポスター発表会場では、長期間地元で普及を続けている「道産ヒバの」育林技術や民有林施業で発生した林地未利用材を活用事例が紹介されました。

午後からの道総研森林研究本部の部（林業試験場・林産試験場）では、「森林の役割と森からの恵み」と「森林資源循環利用のために」の2テーマに沿って、口頭発表10課題、ポスター発表27課題の計37課題の発表を行いました。口頭発表では、近年、生物多様性や自然環境の損出を止め、回復軌道に乗せる国際的な概念であるネイチャーポジティブをキーワードにした防風林管理に関する取組事例や、今後、利用拡大を見込むクリーンラーチの優良種子の増産技術、森林調査業務の高精度化と省力化を目指したUAVを活用した研究事例、初期保育において重要な課題である下刈作業の省力化に向けた研究事例などを紹介し、来場者から多くの質問が寄せられました。



写真1 森林研究本部長より発表概要を説明



写真2〔口頭発表〕気候変動・野生動物リスク下で進めるネイチャーポジティブな防風林管理の普及実装



写真3〔口頭発表〕新しい計測技術による森林資源量把握技術の実用化について

ポスター発表会場には、研究内容を紹介したポスターの他、それに関連した成果品や機材を展示しました。

カラマツ類の最重要病害の一つであるならたけ病は、カラマツ類に比べ、クリーンラチ (CL) などの雑種 F<sub>1</sub> の方が被害を受けやすいことが知られており、そのリスクを軽減する植栽条件を選定する研究や、大量発生によりテレビなどのメディアで取上げられる機会が多いカラマツ類の主要食用性害虫であるマイマイガに関する研究内容の紹介、道内主要造林樹種であるカラマツを対象に航空機 LiDAR による高解像度地位分布図と路網図を基にした林業収益ポテンシャルマップの試作などを林業試験場から紹介しました。

林産試験場からは、日高地域で取組まれている広葉樹低質材の高付加価値化と販路拡大に向けた取組み事例やウスキーづくりにおける樽の役割と新たな道産樽用木材の検討結果などを紹介しました。

当日は、林業・木材産業関係企業をはじめ行政機関や研究機関など約 200 名の方々に来場いただきました。御来場の皆様から、多くの御質問や貴重な御意見をいただくことができ、林業・林産業に対する関心と研究成果の実用化への期待の高さを改めて実感する発表会となりました。

次のページより、林業試験場のポスター発表全 10 課題を紹介していますので、ぜひ御一読ください。



写真 4 [口頭発表] 衛星画像を用いた北海道全域の天然林資源情報把握手法の開発



写真 5 [口頭発表] 植栽木周辺の雑草木がトドマツおよびカラマツ類の生残と成長に与える影響：3 シーズンの結果



写真 7 林産試験場長による閉会あいさつ

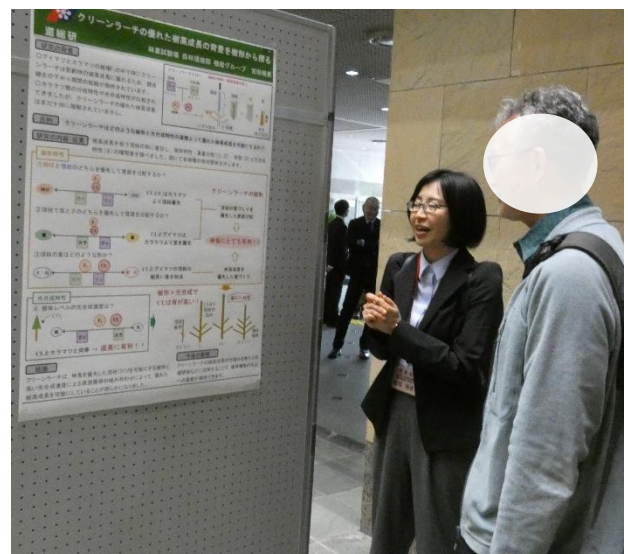


写真 6 ポスター発表会場での意見交換